

松山大学論集
第二十六卷第三号抜刷
平成二十六年八月発行

『外交時報』 総目次―戦後編(二)

——一九六二年一月第九九四号―一九六七年二月第一〇四七号——

伊藤 濱
藤岡 鷹
信哉 行

資料

『外交時報』総目次―戦後編(二)

——一九六二年一月第九九四号—一九六七年二月第一〇四七号——

伊藤信哉
浜岡鷹行

第九九四号 一九六二年一月号

巻頭言 創刊六五年の新春に想う〔武内文彬〕

五―五

特集 一九六二年の世界情勢を打診する

日本外交の背後に在るもの―新年に際して国際情勢を思う〔蠟山政道〕

六―七

国連・三つのポイント―中国代表権・核兵器・事務総長〔入江啓四郎〕

八―一〇

海外論調

一―一―一

新春対談 日本外交の焦点〔小坂善太郎・細川隆三〕

一―一―一六

時の人 マカパガル新大統領―フィリピンのツケネデイ

一七―一七

特集 一九六二年の平和を脅すもの

ドイツ・ベルリン問題の再検討―期待される冷戦緩和〔斉藤孝〕

核実験と軍縮問題の行く方―世論にのぞむ〔久住忠男〕

苦難と戦う中共の活路―ぬかるみは尚も続く〔古田時夫〕

緊迫化するベトナム情勢―末期症状のご政権〔梶谷善久〕

A・A諸国をめぐる五つの問題―中立をまもる〔宮川隆泰〕

ガット閣僚会議の収獲―対日三五条の撤回を協議

対共産圏貿易の将来（一）一九六二年・日ソ貿易の問題点〔岩野武一〕

対共産圏貿易の将来（二）日中貿易の見通し〔明野義夫〕

貿易の自由化と経済成長―金解禁とはどう事情が違うか〔金森久雄〕

写真ページ ソビエトの市民生活

転換する世界経済―EECをめぐるアメリカの動向と日本〔前田寿夫〕

ウオッチ・タワー 欧州共同市場と農業問題・OECD会議の狙い

対談 十字路に立つ日本の経済・外交〔堀江薫雄・小幡操〕

写真ページ 紛争にゆらぐ日本の海外投資（ポルトガル領ゴア）

あ・ら・かると 超核爆弾の主目標は中共・従属的中立主義・平和部隊その後・

ハリマン米國務次官補

アメリカ経済外交の新局面―注目される新貿易政策の胎動〔佐藤和男〕

海外論調

一八一二〇

二一―二三

二四―二六

二七―二九

三〇―三二

三三―三三

三四―三五

三六―三九

四〇―四二

四三―四三

四四―四九

五〇―五一

五二―六〇

六一―六一

六二―六三

六四―六八

六九―六九

特集 一九六二年の危機を探る

- アラブ世界の台風の目―シリア・エジプト・アルジェリア〔石田重光〕 七〇―七二
- 混乱するコンゴの背景―ますます深刻化する内部事情〔小谷秀二郎〕 七三―七五
- インドネシアを動かすもの―指導された民主主義のゆくえ〔永田芳男〕 七六―七八
- 赤い風にそよぐ人民たち―ラテン・アメリカにくすぶる火の手〔岡部広治〕 七九―八一
- アルバニア問題はどうか発展する―カギをにぎる中共の動向〔木村明生〕 八二―八四
- 日ソ貿易は伸びる〔桑原季隆〕 八五―八七
- 世界経済における地域化の理論―経済共同体は今後どう展開するか〔赤松要〕 八八―九二
- 時事英語解説 Post-Card Incident と平和部隊〔磯部佑一郎〕 九二―九四
- 池田首相の東南アジア旅行―池田親善外交の成果 九五―九五

第九九五号 一九六二年二月号

- 巻頭言 グローバルな国際経済戦略を〔武内文彬〕 五一―五
- ネール外交の将来―ゴア事件は合法か非合法か〔田村幸策〕 六一―九
- 時の人ドブレイン駐米ソ連大使 九―九
- 特集 日韓問題の生態
- 朝鮮をめぐる危機の実態―「現状維持」は可能か〔鎌田光登〕 一〇―一四
- 日韓会談のゆくえ―両国民の理解と提携のために〔金三奎〕 一五―一七
- この眼で見た韓国の近況―東西対立の谷間にある民衆たち〔村上薫〕 一八―二一

時の人サラザール・ポルトガル首相

イスラエル外相ゴルダ・メイヤ女史を迎えて〔小金義照〕

対談 難関に当面する日本の経済と外交〔藤山愛一郎・細川隆元〕

アジアの盲腸 台湾〔鄭飛龍〕

新刊紹介 谷林正敏監修、日本貿易会編『欧州経済統合と英国の加入

―EEC・EFTA・英連邦〕

ウオッチ・タワー 一九六二年ヨーロッパ経済の見とおし―EECの進展

写真ページ ニュージーランド 今・昔

座談会 欧州経済統合と日本経済の立場〔安倍勲・谷林正敏・伊原隆・寺尾一郎〕

特集 日本の輸出市場をさぐる

アメリカ―景気上昇に期待する〔大上仁〕

ヨーロッパ―輸出はばむ高い「壁」〔湯川智〕

共産圏―きびしい西欧との競争〔明石正夫〕

東南アジア―甘くはない今後の見通し〔椿博行〕

中南米―拡大進出の期待〔佐々木潤〕

中近東―悪化する輸出環境〔山下房暲〕

アフリカ―不均衡な片道貿易〔玉井忠男〕

時の人 ケネディ米司法長官、クレイ米陸軍大将

ボイス・オブ・ザ・ワールド

二一―二一
二二―二三
二四―二七
二八―三二
三二―三二
三三―三三
三四―三五
三六―四九
五〇―五四
五五―五八
五九―六三
六四―六七
六八―七一
七二―七五
七六―七九
七一―七一
七五―七五

海外経済論調 一九六二年アメリカ経済の見通し―断言できる景気上昇

アメリカの輸入自由化政策とその法的側面〔佐藤和男〕

IMF強化案とその問題点〔荒木信義〕

平和のための原子力―わが国における原子力開発の現状と海外諸国の開発の特色〔米沢弘人〕

第九九六号 一九六二年三月号

巻頭言 アジア旋風時代〔武内文彬〕

朝鮮半島における南北経済戦―五カ年計画にかける韓国七カ年計画にかける北鮮〔前田寿夫〕

日ソ貿易問題の核心を衝く―平和と繁栄への道開く大きく変ったソ連の経済と貿易〔山本熊一〕

香港だより

国際社会に生きる道―日本外交は国連中心に努力せよ〔森恭三〕

日本の領土問題と平和外交の路線

―沖縄・千島・南カラフトの主権者は誰か 米ソ対立の間に立つ日本外交の歩み〔田尻愛義〕

沖縄の祖国復帰問題〔付記・参考資料 自由人権協会調査報告書要旨〕〔帆足計〕

近刊紹介 ロバート・W・キャムベル『ソビエト経済入門』

海外資料 ケネディ大統領記者会見（二月二二日・抜粋）

時の人 ファンファーニ・イタリア首相

海外経済論調

時の人 ヘッダ・アルジェリア臨時政府首相

八〇―八一

八二―九一

九二―九四

九五―九九

五―五

六一―四

一五―一九

二〇―二一

二二―二三

二四―二九

三〇―三八

三八―三八

三九―四一

四一―四一

四二―四三

四三―四三

新段階に入った欧州経済統合〔荒木信義〕

時の人 トンプソン駐ソ米大使

次の世代のリーダーたち (一)

明日の西ドイツの宰相―アデナウアーの座を狙う五人の男のプロファイル〔三宅正樹〕

ストラスブルグより帰りて―欧洲議会見聞記〔伊部時代〕

北オーストラリア高原開発計画〔河相達夫〕

時の人 アジユベイ・イスベスチャ紙編集長

アメリカ人間衛星をめぐる話題

国際関係の所産としての「日本国憲法」―その制定経過に対する考察と反省〔清水伸〕

第九九七号 一九六二年四月・五月号

巻頭言 人間自身の征服〔武内文彬〕

日本の経済外交〔関守三郎〕

時の人 トンク・ラーマン マラヤ連邦首相

霞ヶ関夜話

日本の領土問題を載る

― 沖繩・小笠原の日本復帰と北方領土問題の早期解決を望む〔床次徳二〕

米新政策に対する見解と対策 (一九六二・三・二四)〔沖繩自民党〕

随筆 ラオスの日の丸〔飯村繁〕

四四―四八
四八―四八

四九―五三

五四―五五

五六―六二

五八―五八

六三―八五

八六―九一

五―五

六一―二二

二二―二二

一三―一三

一四―一九

一九―二〇

二一―二二

| | |
|---------------------------------------|-------|
| 時局放談 この眼で見た世界の動き〔高垣金三郎・武内文彬〕 | 二二―三六 |
| 時の人 フーシェ・アルジェリア高等弁務官 | 三六―三六 |
| 霞ヶ関夜話 | 三七―三七 |
| E E Cと戦う日本経済 | |
| ―大きな歴史的な流れをつかまないと、真実の姿が逃げてしまう〔桑原季隆〕 | 三八―四二 |
| 随筆 名議長宣言す〔加納久明〕 | 四三―四三 |
| 欧州共同市場の対外政策〔功力喜久男〕 | 四四―四九 |
| 時の人 解任されたクロル前駐ソ西独大使 | 四九―四九 |
| 日本綿業―今後の進路〔村山高〕 | 五〇―五四 |
| テレビ番組「問題と答え」におけるハリマン国務次官補の談話 | 五五―五九 |
| 黒い嵐に襲われたベルギー | |
| ―コンゴの大密林に流された赤い血ベルギーに消えさらぬ黒い傷あと〔白井近夫〕 | 六〇―六四 |
| 海外経済論調 | 六五―六九 |
| ホットコーナー ビルマのクーデター | 七〇―七一 |
| 追込まれた中国経済〔土井章〕 | 七二―七七 |
| スポット・ライト | 七五―七五 |
| 時の人 ビルマ革命委員会議長 ネ・ウイン將軍 | 七七―七七 |
| 最近の国際金融と通貨問題〔丁野清春〕 | 七八―八一 |
| ホットコーナー シリア・アルゼンチンのクーデター | 八二―八三 |

資料文献 ソ連と世界経済 (S・ヴィシユネフ)

国際資料 沖繩問題・エカフエ総会

八四―九一
九二―九七

第九九八号 一九六二年六月号

巻頭言 日ソ関係の打開 (武内文彬)

火を吹くラオス 短期駐兵：チャンスあり 長期駐兵：第二の朝鮮事変へ (武ノ内文与志)

六一―七
五―五

北洋漁業をめぐる日ソ関係―世論を起こし、権益を守れ (大平善悟)

八一―六

霞ヶ関夜話

一七―一七

中ソは妥協できない―フルシチョフ・毛沢東 せめぎあう二つの赤い星 (桑原寿二)

一八―二四

時の人 ナジム・エル・クトシ シリア大統領

二二―二三

海外ニュース ヨーロッパの防衛問題 (五月一七日ケネディ大統領記者会見より)

二五―二五

高まるアジアの経済協力―O A E Cの構想は必要であり、可能である (栗本弘)

二六―三一

E E Cを背景とする西ドイツの新航路 (ノイエル・クルス) (鬼丸豊隆)

三二―三九

時の人 セホ・マリア・ギド アルゼンチン大統領

三七―三七

時の人 ファレス アルジェリア臨時政府主席

三九―三九

占領下・沖繩の教育―切々胸をうつ現地の声 (長谷川峻)

四〇―四七

近刊紹介 T・C・シエリング、M・H・ハルペリン 『戦略と軍備管理』

四一―五一

／ハーマン・カーン 『軍備競争とその危険性』 (伊藤皓文)

四八―五一

座談会 科学時代に秘密はない―政治・産業スパイ戦に勝つは愛国心

〔松島慶三・古谷多津夫・河村愛三・深町讓・池田貞枝・五島広作〕
海外経済論調

新移民政策を断行せよー日本経済発展の支柱 今後二十年の勝負〔二宮謙〕

ホット・コーナー アラスカの日本漁船捕獲事件

毛沢東の「矛盾論」をただすー竹内氏の訳文について〔加賀美嘉富〕

時の人 ジョルジュ・ポンピドゥー フランス首相

アジア生産性機構の組織と活動〔同事務局〕

国際資料 国連人権セミナー・軍縮委十七カ国に対する

核停協定成立要望の口上書・南米主要移住地分譲条件比較

国際日誌

スピーカー

第九九九号 一九六二年七月号

巻頭言 国際新風と国連〔武内文彬〕

時論 反省を要するアメリカ外交ー東南アジアが求めるもの〔森恭三〕

日本経済と通商拡大法の圧力〔武山泰雄〕

米宇宙飛行士第二号カーペンター少佐ーその人と家庭

岐路に立つ大西洋同盟〔林三郎〕

韓国の「政治浄化」と日韓交渉の将来〔松本博一〕

五二一六四

六五一六七

六八一七七

七八一七九

八〇一八八

八三一八三

八九一九四

九五一九八

九五一九八

九九一九九

五一五

六一九

一〇一五

一六一七

一八一五

二六一二九

ベルリンだより

対談 声価高まる日本の国連外交〔岡崎勝男・武内文彬〕

時の人 サリンジャー米大統領報道官、ラダクリシユナン・インド大統領

沖繩はアメリカの防波堤ではない―住民に深い失望感〔帆足計〕

参考資料 沖繩問題の積極的解決法についての要望〔沖繩教職員会〕

ソ連の新詩人―作品と横顔

バービィ・ヤール〔エヴゲーニイ・エフトウシエンコ（村井隆之訳）〕

ビートでないビート詩人 エフトウシエンコと会うの記〔草鹿外吉〕

ソ連の提唱・「国際貿易機関」―EECの脅威を繞って〔青海太郎〕

日中貿易の必然性〔蔵居良造〕

転換する米国の対西欧経済政策―ニュー・フロンティアの大西洋的拡大〔荒木信義〕

「軍縮のための世界婦人集会」に参加して〔田中島あさ子〕

時の人 板垣修フィリピン大使・杉道助日韓会谈首席代表

難問山積するラオス情勢

国際要語ABC（Aの項）

資料文献 ソ連外国貿易の発展〔G・ルビンシュタイン、M・バクシト〕

国際資料 沖繩問題、海外開発問題、軍縮平和問題、沖繩新民政官

国際日誌

スピーカー

三〇―三一

三二―四二

四三―四三

四四―四九

四九―五一

五二―五三

五四―五五

五六―五七

五八―六一

六二―六五

六六―六六

六七―六七

六八―六九

七〇―七〇

七一―七八

七九―八三

七九―八二

八四―八四

第一〇〇〇号 一九六二年八月号

巻頭言 ケネディの外交音色〔武内文彬〕

時論 力に正しい位置を与えよ〔鈴木芳人〕

平和勢力と戦争勢力〔曾野明〕

時の人 フォイ・D・コーラー駐ソ米大使・シャノン・B・マキューン沖繩民政官

対談 なくなる恐怖の均衡 核軍事戦略の転換―A・M・Mの急速な開発で

〔佐伯喜一・渡辺誠毅〕

時の人 河合良成日ソ貿易促進使節団々長・柿坪正義国連大使

欧州共同市場と日本農業―近代化に必要な世界的視野〔竹山祐太郎〕

外交用語ABC〔Bの項〕

アメリカ施政権の本質〔横田喜三郎〕

写真ページ アメリカの国立公園

時局放談 漁業権と領土問題は分離せよ―モスクワより帰って高碕代表は語る〔高碕達之助〕

変貌するソ連憲法―戦時非常体制から平和共存体制へ〔大川透〕

外交時報復刊号 総目次（一九六一年八月号）―一九六二年七月号）

国際資料 ラスク国務長官記者会見抜粋

国際日誌

スピーカー

515

617

8112

13113

14138

39139

40150

51151

52164

65167

68173

74180

81184

85191

85189

92192

第一〇〇一号 一九六二年九月号

卷頭言 欧州経済新秩序〔武内文彬〕

五―五

時論 米国の世界的指導性

六―七

―キメ手のないキューバ・ベルリン 国際経済政策から世界経済政策〔武内文彬〕

日本産業の新秩序―官民協調体制の強化と推進〔紅林茂夫〕

八―一三

後進国援助を重視せよ―日本経済外交の活路〔桑原季隆〕

一四―一八

時の人 勝野康助ノルウェー駐在大使・高瀬侍郎セイロン駐在大使

一九―一九

外交座談会 超党派外交の場を求めて〔床次徳二・帆足計・長谷川峻〕

二〇―三〇

時の人 ムニヨス・グランデス・スペイン副総統、ピノグラードフ駐日ソ連大使

三五―三五

現地に見る日本の経済外交―イランの石油開発、韓国の産業開発〔湯川康平〕

三六―四〇

特集 わが国本年度上半期における輸出環境の実態

東南アジア―カギ握る経済協力の進展〔湯川智〕

四二―四六

中近東―輸出さまたげる対日差別〔中根友造〕

四七―五一

アフリカ―活路はプラント輸出〔久司正夫〕

五二―五七

西欧―成果みのある協定交渉〔玉井忠男〕

五八―六三

北米―クリスマス景気が問題〔小泉允雄・川守田莞壘〕

六四―六九

共産圏―西欧諸国との貿易競争〔中村喜和〕

七〇―七四

中南米―望ましい工業化への参加〔橋村和寿〕

七五―七九

オセアニア―秩序ある輸出体制を〔後藤雄〕

八〇―八三

第一〇〇二号 一九六二年一〇・十一月号

巻頭言 貿易自由化と日中貿易〔武内文彬〕

時論 悲劇・中印国境戦の激突―解決は「国連」ネール首相への期待〔西郷教馬〕

日韓交渉 波紋に留意 対日請求権問題〔宇都宮徳馬〕

時の人 金鍾泌韓国中央情報部長、ベンベラ・アルジェリア首相

座談会 新しい日中関係の核心を衝く〔松村謙三・野田武夫・似田博〕

時の人 黄田多喜夫外務審議官・松井明国連大使

経済外交研究会座談会「経済外交」の全容を展望する

〔野田武夫・関守三郎・松村敬一・高橋幸司・秋元茂・山本廉・湯川康平〕

特集 日中貿易問題の検討

日中貿易関係の背景―協定破棄から「友好商社」取引へ〔青海太郎〕

日中貿易打開の機到る―伏兵の発作を警戒せよ〔武内文彬〕

日中輸出入貿易の内容

発展する平和部隊

特集 キューバ事件

キューバ危機は斯うして起った

一週間の危機・新世界時代への黎明！〔毛利恭二〕

核戦争への冒険―一週間の危機―キューバ事件の真相と経緯

キューバ事件日誌

五―五

六―七

八―一二

一三―一三

一四―二一

二二―二二

二三―四一

四二―四七

四八―五二

五三―五七

五八―五八

六〇―六〇

六一―六一

六二―六八

六九―六九

キユーバ事件資料集

七〇―八三

第一〇〇三号 一九六二年二月号

巻頭言 世界外交の転機 三大事件は教える〔武内文彬〕

五―五

時論 日英通商条約成る―マクミラン首相曰く新「日英同盟」である〔武内文彬〕

六―七

本年日本が締約した三大条約を顧みて―本年成立した条約実に百にのぼる〔中川融〕

八―一四

時の人 ウッズ次期世界銀行総裁・クズネツォフソ連第一外務次官

一五―一五

「日中貿易」新段階に入る―再び中共に使いして〔野田武夫〕

一六―一七

座談会 新「日中貿易」を衝く―見て来た中共の飛躍〔岡崎嘉平太・田林政吉〕

一八―二九

写真集 池田首相のヨーロッパ訪問旅行

三〇―三一

予期以上の成果を収めた池田首相の西欧訪問―将来への軌道は敷かれた

三二―三七

時の人 与謝野秀オリンピック組織委員会事務局長・宮崎章トルコ駐在大使

三八―三八

波瀾をよんだ中印国境紛争―その経緯と主張点〔中村四郎〕

三九―四三

中印国境武力衝突に対する各国の態度と世論

四四―四九

中道主義の勝利 米中間選挙の結果―ジンスクス破った民主党

五〇―五二

日本をめぐるエア―ライン

五三―五三

モスクワへの旅〔帆足計〕

五四―六三

日米貿易経済会議の成果―ボカされた共同声明 ケネディ発言は尾を引くか〔毛利恭二〕

六四―六五

国際資料集 今年（一九六二年）成立した三大条約 日米ガリオア協定・

日タイ特別協定・日英通商居住及び航海条約

国際資料集 池田首相訪欧演説集

科学ページ

六六一八五

八五一九〇

九一一九一

第一〇〇四号 一九六三年一・二月号

巻頭言「平和の勝利」の年に〔武内文彬〕

五一五

動きつつある中共外交の実体を衝く〔蔵居良造〕

六一一三

日韓会談の焦点をさぐる

―無意味な個人プレーをやめ正常ルートによる解決を重視せよ〔中保与作〕

一四一九

対談 一九六三年の世界経済と日本

―国際的視野に立ち国内体制を整備せよ〔大来佐武郎・高垣金三郎〕

二〇一三三

アメリカから見た中ソ論争の実体

三四一三七

新しい韓国の表情―韓国訪問より帰って〔船田中〕

三八一四一

南極大陸に立ちて―昭和基地の再開を想う〔長谷川峻〕

四二一四七

座談会 一九六三年の国際情勢を分析する

―米・ソはキューバ問題から何を学んだか〔佐伯喜一・林三郎・帆足計〕

四八一六六

プラウダ社説「平和と社会主義の勝利のための共産主義運動の統一を強化しよう」

（一九六三年一月七日）

六七一八三

国際的に重要化したラテン・アメリカ対策〔沢田節蔵〕

八四一八九

モスクワからカイロへの旅〔帆足計〕

九〇―九九

第一〇〇五号 一九六三年三・四月号

巻頭言「欧州第三勢力」生る〔武内文彬〕

五―五

日中貿易問題の核心を衝く―戦後から松村・高碕覚書まで〔山口宏〕

六―一五

日米綿製品交渉の背景と展望〔青木佐久太郎〕

一六―二三

転機に立つた世界外交―燃ゆる欧州を繞りて〔武内文彬〕

二四―三〇

躍動する日ソ貿易―一〇億目標の安定輸出へ〔林寧樹〕

三一―三七

責務と好機の年―63のケネディ大統領〔坂西志保〕

三八―三九

アジアの六巨頭・素描―毛沢東／劉少奇／周恩来／ホー・チミン

四〇―四七

／金日成／ユムザジン・ツエデンバル

四八―六二

海外「移住理念」の革命―「棄民」から開発協力時代へ〔高木広二〕

六三―六八

世界の国・一覽表

六三―六八

第一〇〇六号 一九六三年五・六月号

巻頭言 重大な「中ソ論争」―本格的な研究を欠く日本〔武内文彬〕

五一―五

国際新段階〔大井篤〕

六一―一五

日仏通商協定成る―秩序ある輸出体制へ

一六―二一

特集 戦史研究

二二―二三

- 外国の戦史研究と第二次大戦の文献について〔西浦進〕
 一三三―一三〇
- 『太平洋戦争への道』の完成を迎えて〔小林龍夫〕
 三一一―三四
- アメリカのガットへの関心―ガット閣僚会議と米国の立場〔X・Y・Z〕
 三五―三七
- 中共の鼓動―政治・外交・経済
 三八―三九
- 特集 米国の観た日本経済
- 日本経済への期待と希望
 四一―四六
- ― 経済同友会での演説〔ハーター米大統領通商特使〕
- 米国の極東戦略と対外援助
 四六―五一
- ― 米下院外交委員会における証言全文〔ヒルズマン極東担当國務次官補〕
 五一―五三
- 日本の寄与と期待―日米民間経済団体報告
 五三―五七
- 世界貿易における日本の使命―在日アメリカ商業会議所、日米協会、経済団体連合会、
 東京商工会議所共催昼食会での演説〔フランクリン・D・ルーズベルト米國商務次官〕
 五七―五九
- 日米貿易政策について―東海北陸知事会議の演説〔ライシャワー駐日米大使〕
 五九―六〇
- 日本は国際経済競争に強い国―日本セールズ幹部部協会国際交流委員会発会式演説
 六一―六一
- 〔A・Z・ガーディナー経済担当駐日米公使〕
 六二―七五
- アメリカ宇宙人第四号クーパー少佐とはこんな人 ツル―デイ夫人も立派な飛行士
 六二―七五
- キューバ事件以後・経過表

第一〇〇七号 一九六三年七月・八月号

卷頭言 中共を「孤立化」すな〔武内文彬〕

特集 米・英・ソ「部分的核実験停止条約」調印

米英ソ「部分的核実験停止条約」の意義〔森恭一〕

米英ソ「部分的核実験停止条約」関係文献集

新ローマ法王パウロ六世ーローマを全人類の「父の家」に

対談 世界経済の方向と日本の経済外交〔大島昭・渡辺武〕

米「黒人問題」は何処へ〔雨宮米吉〕

黒人問題の全米的挑戦ー全米市長会議のケネディ演説

中共きのう・きょう〔前田盛三〕

メキシコ・ブラジル・アルゼンチンー日本の企業進出・可能性を探る〔高橋幸司〕

「バチカン」に革命的新風ーヨハネス二三世の偉業を讃えよう〔M・E・パトリシア〕

特集 米・欧関係 真実と背景ーケネディ米大統領の訪欧

平和の戦略ー弱きものに安全を強きものに正義を〔J・F・ケネディ〕

L A S E R 光線ー今世紀最大発明の一つ

統計で見る「カトリック」王国

五―五

六一―一

一二―二六

二七―二七

二八―四四

四五―四九

五〇―五三

五四―五七

五八―六二

六三―六六

六七―九〇

九一―九七

九八―九九

一〇〇―一〇六

第一〇〇八号 一九六三年九月・一〇月号

卷頭言 無限の期待へ〔武内文彬〕

五一―五

- この眼で見たキューバ〔宇都宮徳馬〕
 六〇―一六
- 日米綿製品取り決め―その経緯・内容・問題点〔相模次郎〕
 一七―一八
- 日米綿製品取り決め調印に当つて―福田通産大臣は語る
 一八―一九
- 日米綿製品取り決め要綱
 一九―二二
- 太平洋地域における米国の政策〔ロジャー・ヒルズマン〕
 二二―三二
- アジアを斯く見る―ヒルズマン極東担当国務次官補を囲んで
 三二―三八
- 〈八月一三日ボイス・オブ・アメリカ放送番組 U S A 記者会見〉
 三九―三九
- 統計からみたアメリカ大学の留学生―ニューヨーク国際教育協会報告
 四〇―四五
- 若返えりつゝあるアメリカ―全米市長会議に出席して〔大久保伝蔵〕
 四六―四九
- 海外技術協力と日系移民子弟の役割〔高橋幸司〕
 五〇―五一
- アジアで初めて開かれた「世界連邦」世界大会〔湯川晴雄〕
 五二―五二
- 世界連邦と完全軍縮〔湯川秀樹〕
 五三―五三
- 世界平和への道〔元英首相アトリー〕
 五四―五五
- 世界連邦大会「東京宣言」
 五六―五七
- 中共きのう・きょう〔前田盛三〕
 五八―六四
- 中共の経済は好転した〔X・Y・Z〕
 六五―七三
- 中国の旅―人民公社の見学など〔帆足計〕
 七四―七七
- 特集 中ソ「声明」合戦―「中ソ論争」の頂点「戦争と平和」論の帰結
 七四―七七
- 中共の「核停条約」反対声明〔全文・一九六三年七月三一日〕

中共政府スポークスマンの声明〈全文・一九六三年八月二五日〉
ソ連の中共声明に対する反駁声明〈全文・一九六三年八月二一日〉

七七一八九
八九一〇四

第一〇〇九号 一九六三年二月号

巻頭言 OAUの団結と攻勢―焦点はアジアへ

五一五

中・ソ論争の決裂も断交もない―周恩来首相の重大発言〔武内文彬〕

六一八

特集 池田首相西太平洋四カ国訪問

九一―二八

日本の観た国際課題―国連総会の一般討論演説〈全文〉〔大平正芳〕

二九―三六

国際連合「年次報告」序文〔ウ・タント〕

三七―四七

IMF総会・報告

先進国と後進国の連帯を強靱に〔田中角栄〕

四八―四八

IMF総会における田中蔵相の演説〈全文〉〔田中角栄〕

四九―五〇

IMF総会におけるジロン米財務長官の演説〈全文〉〔ダグラス・ジロン〕

五一―五七

IMF第一八回年次報告

五八―五九

対談 日中貿易の現状と展望〔岡崎嘉平太・武内文彬〕

六〇―六八

沖繩視察より帰って〔野田武夫〕

六九―七四

微妙なエアハルト外交―西独首相の更迭 成功はア前首相との親密度〔たけのうち・さちを〕

七五―七八

第一〇二〇号 一九六四年一月号

日本自主外交の二前提―一九七〇年の危機に備えるために〔嶺山政道〕

一―三

座談会 '64年度の国際情勢展望

―両陣営の欠陥の是正による均衡〔森恭三・鈴川勇・武内文彬〕

四―一八

現地報告 変った中共の姿―北京の日本工業展に使用して〔上村幸生〕

一九―二五

E E Cとアフリカ諸国〔桑原重美〕

二六―四一

ケネディ暗殺の波紋―この目で見たアメリカの表情〔小辻誠祐〕

四四―四九

綜合特集 ジョンソン米新大統領を語る

五〇―五四

附載 米議会両院合同会議における大統領演説〔全文・一九六三年一月二七日〕

五五―五七

ジョンソン米大統領の一九六四年度一般教書〔全文・一九六四年一月八日議会提出〕

五八―六三

ケネディからジョンソンへ―ケネディ前大統領の偉業 暗殺を予想していた？

六四―六五

第一〇二二号 一九六四年二・三月号

座談会 ドゴール外交の波紋と日本外交の進路

〔鹿島守之助・宇都宮徳馬・岡田宗司・帆足計・永末英一・武内文彬〕

二二―四

フランスの中国承認にひそむもの―日本外交の生きるべき絶好の機会〔小幡操〕

二五―三一

中共承認の海外論調

三二―三四

新聞論調にみる日本の反響

三四―三五

パナマ運河事件の示唆するもの―中南米におけるアメリカの苦悩〔帆足計〕

三六―四三

日米貿易経済合同委員会の成果〔A・Z・ガーディナー〕

四四―四八

原子力潜水艦寄港問題の展望―日米交渉史の上に残された大きな足跡〔加茂英史〕

四九―五六

外交秘話（一）降伏文書調印と最初の終戦連絡〔岡崎勝男〕

五七―六八

第一〇二二号 一九六四年四月号

再び日・中・米・ソ四方国同盟を提唱する〔石橋湛山〕

二―三

座談会 中共承認とその後国際情勢を分析する〔三木武夫・西春彦・宇都宮徳馬・帆足計〕

四―一二

解決を迫られるベトナム問題の背景〔永坂昭〕

二三―二七

EECとアフリカ諸国（承前）〔桑原重美〕

二八―四一

東の目・西の目

四二―四三

最後の勝利を握るもの―ジョンソン米大統領の記者会見

四四―五四

外交秘話（二）吉田内閣の出現と平和条約締結の舞台裏〔岡崎勝男〕

五六―六二

戦後日本外交二十年史（年表）一

六三―八〇

第一〇二三号 一九六四年五月号

マッカーサー元帥の逝去を悼む〔岡崎勝男〕

二―三

座談会 開放経済下における日本農業の課題〔那須皓・山地進・伊東正義・中村吉次郎〕

四―二四

資料 一九六四年度米国の対外援助―巨額だが史上最少のものになる

二五―二五

大詰にきたILO批准問題―互いに国際信用を守ることに努力せよ〔秋定鶴造〕

二六―三〇

- 欧州証券市場の新動向―開放経済下の日本市場に示唆するもの〔宮沢待郎〕 三二―三九
 北と南の關係の開放体制―国連貿易開発會議に出席して〔ジョージ・ボール〕 四〇―四五
 世界連邦ニュース 国会に呼びかける世界連邦運動 四六―四七
 外交秘話 (三) 山崎内閣の不成立と吉田内閣の実現〔岡崎勝男〕 四八―五四
 戦後日本外交二十年史(年表) 二 五六―七一

第一〇一四号 一九六四年六月号

- 岐路にたつ日本の対中国外交―松村謙三氏にきく中共の新動向〔松村謙三〕 二―七
 ネールさんと世界連邦〔田中正明〕 八―九
 苦悶するインド外交のゆくえ―ネールの死とその後に来るもの〔小西健吉〕 一〇―一五
 国際信用を阻害するもの―貿易におけるクレーム問題〔坂本義行〕 一六―一九
 国際経済の新しき展開―E E Cとアメリカ経済の対立〔宮沢待良〕 二〇―二六
 中共の世界観〔マーシャル・グリーン〕 二七―三一
 E E Cとアフリカ諸国 (三)〔桑原重美〕 三二―五〇
 資料 米国の雇用数・大幅に増加―三九ヵ月間に一千億ドルの利益 五〇―五〇
 外交秘話 (四) 石油利権の獲得と国連大使就任〔岡崎勝男〕 五二―六〇
 戦後日本外交二十年史(年表) 三 六一―七二

第一〇一五号 一九六四年七月・八月号

座談会 祖国復帰を訴える百万沖繩同胞〔神山政良・伊豆見元一・宮良長欣〕

わが政治哲学〔リンドン・B・ジョンソン〕

E E Cとアフリカ諸国(四)〔桑原重美〕

トピック ベルリン問題は依然重大

二十世紀の錬金術―満十年を迎えた余剰食糧援助計画〔X・Y・Z〕

転機に立つ日本の経済外交―対米偏向を調整して自主性を確立せよ〔帆足計〕

外交秘話(終回) 印象にのこる国連初演説、文書に「先進国日本」〔岡崎勝男〕

戦後日本外交二十年史(年表) 四

第一〇一六号 一九六五年一月号

巻頭言 危機か転換か〔武内文彬〕

国際外交・二つの焦点―中共の核実験とソ連政変〔武内文彬〕

本年の農林外交の問題点―ケネディ・ラウンドと国際漁業交渉〔村上洋〕

日韓問題と北鮮の位置〔宇都宮徳馬〕

本年の国際外交の焦点〔塩口喜乙〕

太平洋経済協力機構―豪州の提議で段階的推進〔太平進〕

問題山積の本年の国際金融〔金本博〕

成田・周会談の全容―第四次社会党訪中使節団

二一―四

一五一―一九

二〇―三五

三六―三七

三八―四〇

四一―五七

五八―六四

六五―八〇

三一―三

四一―八

九一―四

一五一―一九

二一―二六

二七―二七

三〇―三五

三六―四一

対談 成田社会党書記長に聞くー訪中の旅の成果〔成田知己・武内文彬〕

新情勢と中国をめぐる国際関係〔蔵居良造〕

アメリカアジアについての二つの意見

激動下の世界を正しく認識しよう〔ライシャワー〕

中国には柔軟政策で…〔ヒルズマン〕

沖繩の当面する諸問題ーまたまた沖繩を訪れて〔帆足計〕

佐藤内閣の成立ー新内閣の施政演説

佐藤首相の所信に関する演説

椎名外相の外交に関する演説

田中蔵相の財政に関する演説

第一〇一七号 一九六五年二月号

巻頭言 南ベトナム火を吹く〔武内文彬〕

外交における自主性とは何か〔小幡操〕

山田前駐ソ大使に聞くーソ連の新外交路線〔山田久就〕

南ベトナムから帰ってきてーこの目で見た実体〔長谷川峻〕

第三回日英定期協議ー日英共同コミュニケ

北ベトナムの表情〔西村関一〕

対談 この目で見た中国の真実を語る〔原吉平・武内文彬〕

四二―四八
四九―五七

五八―六〇

六〇―六一

六二―六九

七一―七四

七四―七七

七七―八〇

三一―三

四―一〇

一一―一四

一五―二〇

二一―二一

二二―二三

二四―二七

ド・ゴールは何を考えているか？ーエリゼ宮・千人の記者会見談〔太平進〕

ド・ゴールの記者会見記

ド・ゴールへジョンソンの応酬

日米共同声明〈全文〉

日米共同声明に関する橋本官房長官談話メモ（一九六五年一月一四日）

特集 佐藤総理の渡米（演説集 東京ーワシントン）

アフリカで想う〔野田武夫〕

世紀の巨人ーチャーチルを悼む〔太田進〕

中国・インドネシアの新関係〔林寿夫〕

教書は米議会に流れるージョンソン政策の全容

ジョンソン大統領の年頭一般教書（一月四日）

ジョンソン大統領の就任演説（全文）（一月二〇日）

ジョンソン大統領の予算教書（一月二五日）

第一〇一八号 一九六五年三月号

巻頭言 絶体絶命のベトナム〔武内文彬〕

フルブライト発言と欧州三共同体の統合ー暗黒に輝く二つの星〔森恭雄〕

台湾は誰のものかー台湾の国際法的地位を探る〔田尻愛義〕

対談 台湾を繞る国際関係ー安保条約で日米談合せよ〔田尻愛義・宇都宮徳馬〕

二八一―二九

三〇―三〇

三一―三一

三二―三四

三五―三五

三六―五二

五三―五七

五八―六〇

六一―六三

六五―七二

七三―七五

七六―八二

三一三

四一五

六一―一〇

一一―一九

新局面を迎えた日本の外資政策〔金本博〕

特集 日本紡績業の隘路と血路

紡績業当面の問題点―世界綿業の新しい動きと関連して〔室賀国威〕

世界綿業の動きと日本繊維産業の将来〔田和安夫〕

日本の東西貿易の飛躍

沖繩と千島の国際法的地位―その差異と問題点〔帆足計〕

中国向けプラント・輸出商談〔表〕

中華人民共和国職員録（一九六四年二月現在）

米務省「ベトナム白書」〔全文〕（一九六五年二月二七日発表）

第一〇一九号 一九六五年六月号

巻頭言 世界を覆うツエックメーシッヒ〔武内文彬〕

ベトナム問題・何処へ行く―明瞭になったアメリカ政策の内容〔武内文彬〕

永久平和とベトナム問題〔エドガー・フォール〕

わが国の対外経済協力の新方向―ベトナムなど見て来た後進地域の実体・

起案を急ぐ「対外協力基本法」の内容〔野田卯一〕

日中貿易の危機とその打開の急務〔高碕欣之助〕

特集 転機に立つベトナム問題

転機を迎えたベトナム

二〇―二二

二三―二三

二四―二六

二七―二九

三〇―三一

三二―三四

四五―四七

四八―四九

五〇―七二

三一―三三

四一―四一

一一―一三

一四―一八

一九―二三

二四―三〇

対立する「交渉開始条件」

米国・ベトナム介入の真目的

内政 暗黒のクーデター時代

大戦後の仏の策謀とアジア民族主義

外交―初期からジュネーブ協定へ

ジュネーブ協定の内容

ベトナム基本資料―世界各国の主張とその根拠

第一部 米国の声明・演説・証言・公開状・論文・付 非同盟国アピール

第二部 中・ソ・ベトナム諸国の主張・付 民間権威者の主張

第三部 日本の部

第一〇二〇号 一九六五年七月号

巻頭言「回心の奇蹟」ド・ゴールを軸として〔武内文彬〕

光る―ニューヨーク・タイムス 高き指導性 高次な表現〔武内文彬〕

ソ連二つの発言 核戦争は不可能だ―全面的・完全軍縮の達成へ

構造的不況要因下の日本紡績業当面の問題点〔三木哲持〕

米上院外交委員会を沸かせた私のベトナム報告〔松本俊一〕

中国核実験と日本の立場

付・湯川博士ら平和アピール七人会の「原爆被災白書」計画〔松井明〕

三〇―三三

三三―三九

三九―四二

四二―四六

四六―五一

五一―五三

五五―七八

七九―八七

八八―九一

三一―三

四―五

六―七

八―一一

一二―一六

一七―一七

- 中国ミサイル弾頭原爆実験に成功〔沢田周二郎〕
一八一―二二
- 米国の中共観―「米中戦争」が起こっても「第三次大戦」にはならない
中共の世界観（一九六四年五月二三日 ワシントンの「日米協会」における演説・全文）
二四―二八
- 〔マーシャル・グリーン〕
- 東アジアの進歩と問題―その中の中共批判（一九六四年九月二九日・
東京における演説中の中共批判の部分）〔ウィリアム・P・バンデイ〕
二八一―三三三
- 米政策立案上の問題としての中共（一九六五年二月二六日・
米国のプリンストン大学における演説全文）〔マーシャル・グリーン〕
三三三―三三九
- 中国の新ベトナム観―周恩来首相曰く「世界戦争」は起らない
四〇―四一
- 特集 米国のアジア開発―援助の目的とアジア観
- 総括 米国新アジア開発援助計画―その沿革と性格と成功の条件〔太平進〕
四三―四五
- 東南アジアに対する計画―十億ドル援助を中心として
四五一―四七
- （一九六五年四月七日演説）〔リンドン・B・ジョンソン〕
- 国際政治における新興諸国の役割（一九六五年三月二五日・
独フライブルク大学での演説・全文）〔ウオルト・W・ロストウ〕
四七―五二
- 太平洋地域における米国の政策（一九六三年八月一二日・
ホノルル全米立法会議第一六回年次大会における演説）〔ロージャー・ヒルズマン〕
五三―五七
- ベトナムに対する援助（一九六四年三月二六日・フォレストル・
メモリアル・アワーズ昼食会における演説の一部）〔ロバート・S・マクナマラ〕
五八―六二

東南アジアの現状と将来（一九六五年四月一九日・

デトロイト経済クラブでの演説・全文）〔レオナルド・アンガー〕

六二―六九

アジアにおける経済開発（一九六五年四月二三日・東京での講演・全文）

〔ウオルト・W・ロストウ〕

六九―七六

資料 インドシナに関する一九五四年のジュネーブ協定（全文）

七七―九一

第一〇二二号 一九六五年八月号

巻頭言 ベトナム・転換の一瞬〔武内文彬〕

一―一

ド・ゴール旋風について考える〔小幡操〕

二―七

日米航空協定と議員外交〔長谷川峻〕

八一―一六

日韓条約の調印と今後の日韓関係〔村常男〕

一七―二二

ベトナム紛争に立向う米外交官

二三―二五

アンケート 何処に往くか日本外交

ーベトナムの危機・日本外交の行方に 日本を代表する百三十氏の提言

〔秋山謙蔵・秋山光材・明石総一・雨宮庸蔵・有木宗一郎・池田善昭・伊手健一・

生島廣治郎・今井勝郎・伊藤皓文・今里勝雄・石田栄雄・上田修一郎・宇野重昭・

内田繁隆・梅原一雄・梅沢達雄・浦野起央・衛藤藩吉・越智元治・沖野亦男・岡本幸雄・

大畑篤四郎・岡本順一・大林洋五・大島忠雄・奥原唯弘・尾上正男・大浦敏弘・小幡操・

岡部達味・大塩亀雄・大久保弘一・小川芳彦・大平善梧・大石義雄・植田捷雄・景山哲夫・

- 神川正彦・甲斐静馬・川上壮一郎・神谷不二・金戸嘉七・海妻去彦・亀倉四郎・加藤寛・
 金田近二・河相達夫・嘉納孔・川崎一郎・金井英隆・北沢直吉・氣賀健三・北岡寿逸・
 菊地正・岸田修・金三圭・金晋根・許世楷・金珍寧・北川均・工藤昭四郎・郡司喜一・
 小寺初世子・草間秀三郎・斉藤栄三郎・坂本龍起・洪沢信一・塩沢清宣・坂田善三郎・
 斎藤忠・桜井光堂・完倉寿郎・末松満・清家唯一・菅谷重平・鈴木英史・住吉良人・
 関寛治・高木惣吉・田尻愛義・高木友三郎・谷本圭介・田島信雄・田中勇・土居明夫・
 内藤智秀・難波田春夫・中山治一・西田勲・西田毅・畑中政春・半谷高雄・畑田重夫・
 原覚天・広井大三・肥後和男・日比野正明・広瀬善男・藤瀬五郎・星野清・本田弘敏・
 春木猛・松葉秀文・水飼幸之助・三濑信吾・牧内正男・元川房三・前芝確三・
 村瀬興雄・松本三郎・宮崎繁樹・三宅正樹・山口一之・安岡正篤・横尾和歌子・
 吉原恒雄・渡辺誠毅・江須准・逸名氏（八名）
- ヒマラヤの王国「ネパール」の現情〔神原達〕
- 在奥・独三年の帰朝報告（一）現地に見た西ドイツ
- 第一部 西ドイツをめぐる国際政治〔三宅正樹〕
- 世界経済展望
- 資料 日韓条約（一九六五年六月二二日調印）
- 新刊書評 田村幸策著『ソビエト外交史研究』
- 資料 ベトナム派兵五万増加のジョンソン米大統領記者会見（全文）（一九六五年七月二八日）
- 資料 ウ・タント国連事務総長あてジョンソン米大統領の書簡文（一九六五年七月二八日付）

第一〇二二号 一九六五年九月号

卷頭言 米の「ベトナム白書」戦—中間選挙を前に〔武内文彬〕

特別寄稿 戦後二十年のドイツ問題と米ソ対立の歴史的変遷

〔ワエルナー・コンツェ（三宅正樹訳）〕

核停止条約後二年〔斎藤忠〕

日米航空協定改定問題

航空協定の本質について〔藤島宇宙〕

日米航空協定の「不平等性」—須らく協定は破棄すべし 破棄こそ最良の外交交渉〔三好貞雄〕

沖縄の現地を観て〔安井謙〕

佐藤総理大臣の沖縄に於ける声明と挨拶

日韓問題と日本のアジア外交〔宇都宮徳馬〕

日韓条約批准問題

韓日条約批准の不手際を衝く〔金三奎〕

韓日関係は今後如何にあるべきか〔権逸〕

韓日条約批准「反対の真相」〔康玄哲〕

シンガポールの独立と東南亜の華僑—独立の背景分析を中心として〔王瑜〕

ナホトカ印象記〔萩原康則〕

在欧三年の帰朝報告（二） 現地に見た西ドイツ 第二部 西ドイツの市民生活〔三宅正樹〕

資料 ベトナムにおける米軍の実態

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1—1 | 2—20 | 2—1—3—2 | 3—1—4—1 | 4—2—1—5—7 | 5—8—1—6—4 | 6—4—1—6—7 | 6—8—1—7—3 | 7—4—1—7—7 | 7—7—1—8—2 | 8—2—1—8—7 | 8—8—1—9—2 | 9—3—1—9—8 | 9—9—1—10—8 |
|-----|------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|

ラスク国務、マクナマラ国防両長官のテレビ・インタビュー（一九六五年八月九日） 一〇九―一二〇

第一〇二三号 一九六五年一〇・一―月号

巻頭言 今日こそ「国連革新」の時（武内文彬）

三一三

新生国家における革命の類型学（浦野起史）

四一―二二

日本の政治の動向（フォーリン・アフェアーズ一九六五年一〇月号掲載元原稿）（岸信介）

二二―三三

国民運動と日韓条約批准問題（賀屋興宣）

三二―三九

宇都宮徳馬代議士に寄す―自由主義者の本質と日本外交の根本理念を問う（山本勝市）

四〇―四五

日米不平等条約特集 その二

公海自由の原則を貫き不平等是正に一歩一歩進もう（浜地文平）

四六―四七

日米加漁業条約の不平等性（浅野長光）

四八―五四

日米友好通商航海条約―その主要規定の現代的意義（菊地正）

五五―六一

印パ戦争七つの遺産（江頭教馬）

六二―七一

批准直後の韓国を訪ねて―日本のアジア外交を想う（関戸辰蔵）

七二―七六

中ソ論争におけるベトナム労働党の立場（木村哲三郎）

七七―八五

中共の対「ベトナム」戦略―その総合的・立体的解明（太田勝洪）

八六―九六

ホー・チミンをめぐる暗闘（岡本順一）

九七―一〇〇

アジア・アフリカには自由な道が開けている―その社会文化史的経験（大島忠雄）

一〇一―一一

在欧三年の帰朝報告（三） 現地に見た西ドイツ 第三部 西ドイツの言論界（三宅正樹）

一一二―一二〇

第一〇二四号 一九六六年一月号

巻頭言 天・人共に許さざるチベットの悲劇〔斎藤忠〕

毛沢東革命路線の理論と現実〔小林多加士〕

米中必戦論―一九六六年は米・中激突必至の歳〔石原広一郎〕

日韓条約はどうして作られたか〔大平正芳〕

外交論議と国会〔木下広居〕

孫中山伝記（一）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕

随想 新年の創造的英知―世界国家へ〔武内文彬〕

新生国家群の動向分析（二） アフリカにおける胎動のパターンとその過程〔浦野起央〕

資料 包括的核実験停止条約に関するフォスター米代表の演説訳文

（一九六五年一月二五日国連総会政治委員会）

スターリン・ポツダム・ドイツ〔佐瀬昌盛〕

ポーランドにおける産業開発と化学工業の発展〔近藤一衛〕

オランダ―小さな一流国〔喜多村和之〕

アフリカを遍歴して―新生ザンビアを訪れた最初の日本未婚女性〔野田みどり〕

第一〇二五号 一九六六年二月号

巻頭言 中共軍事介入の可能性〔斎藤忠〕

日ソ外交の新展開〔牧内正男〕

四一五

六一一九

二〇―二五

二六―三一

三二―三九

四〇―四七

四八―四八

四九―七〇

七〇―七一

七二―八二

八三―九六

九七―一〇七

一〇八―一一二

一一一

一二一五

- 日本の海外技術協力〔渋沢信二〕 六一―一
- 政黨員の言論の自由について〔山本勝市〕 二二―一六
- 大國主義と民族國家との対立時代―世界は統合化か分極化か〔高木友三郎〕 一七―二〇
- 素人外相論―附・外交に予算をおしむ愚を論ずる〔石橋貞男〕 二一―三一
- 日米通商条約における商事仲裁条項と日米貿易仲裁協定及び仲裁規則との關係〔菊地正〕 三二―三八
- 新生國家群の動向分析（二）中東における政治力学と展開の類型（上）〔浦野起央〕 三九―四六
- 中ソ論争とキューバ危機以後露呈した中ソ論争とカストロ政權〔今村之治〕 四七―五四
- 資料 アジア国会議員連合第一回總會〔共同声明他〕 五五―六七
- 資料 北ベトナム爆撃再開に関するジョンソン米大統領声明全文（一九六六年一月二日） 六八―六九
- 資料 ラスク國務長官記者会見（全文・一九六六年一月二日） 六九―七三
- 二十世紀が忘れてゐるパプア〔I. S. Marino〕 七四―七六
- 孫中山伝記（二）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕 七七―八四
- 在欧三年の帰朝報告（四）現地に見たオーストリア 八五―九六
- 第一部 永世中立国オーストリアの成立〔三宅正樹〕
- 第一〇二六号 一九六六年三月号
- I propose to establish a clear-cut national defence force in Japan〔Sadao Miyoshi〕 四―五
- 主張 国防省・国防軍創設の急務〔三好貞雄〕 六一―七
- 日本が当面する最大の問題―祖国防衛の大事〔斎藤忠〕 八一―三三

明治国防政策史の考察―「帝国国防方針」と佐藤鉄太郎の国防理論〔伊藤皓文〕

資料 第二次防衛力整備計画に関する防衛生産委員会の要望意見

ベトナム戦争と中共の出方〔土居明夫〕

インドネシア経済再建の道〔斎藤栄三郎〕

ナセル大統領会見記〔長谷川峻〕

二十三回ソ連共産党大会を迎えるブレジネフ・コスイギン新指導部〔佐野真〕

ソ連新政権外交の基調と動向〔萩原康則〕

新生国家群の動向分析（三） 中東における政治力学と展開の類型（下）〔浦野起央〕

中共のチベット併合始末記〔森久夫〕

特別寄稿 日露戦争とポーランドの抗露親日運動〔ジョージ・J・レルスキ（横尾和歌子訳）〕

第一〇二七号 一九六六年四月号

Editorial : A Rule and Limit of Diplomatic Debates must also be observed

by the Opposition Party [Sadao Miyoshi]

巻頭言 政権をとった社会主義政党と永久に政権をとれない社会主義政党

―野党の外交論議の限界について〔三好貞雄〕

三たびアジア国家連合の結成を提唱する―アジア文明の建設を目標として〔廣田洋二〕

特集 国防軍創設の急務

各国の国防機構〔加藤陽三〕

二四―三五

三六―三八

三九―四二

四三―四七

四八―五一

五二―五八

五九―六六

六七―八五

八六―九一

九二―一〇八

三一―五

六一―七

八一―九

三〇―三七

総帥機関の創設こそ先決問題〔渡辺渡〕

三八―四〇

経済外交とその効果―東南アジアを中心として〔今井勝郎〕

四一―四六

ドイツ問題の行方〔朝広正利〕

四七―五六

外交の主導権は誰が握るべきか―外務省の機構拡大強化論〔石橋貞男〕

五七―六七

新生国家群の動向分析（四）A・A諸国の登場と結集をめぐる動向（上）〔浦野起央〕

六八―七六

在欧三年の帰朝報告（五）現地に見たオーストリア

第二部 オーストリアにおける保守・革新の連立〔三宅正樹〕

七七―八七

特別寄稿 第二次世界大戦史の一考察―史料をめぐる諸問題と東西の両局面の統一的把握

〔エーバーハルト・イエツケル（三宅正樹訳・解説）〕

八八―一〇〇

資料 一九五九年チベット国民ラサ蜂起七周年記念日

―ダライ・ラマ声明文（一九六六年三月一〇日）〔全文〕〔森久夫訳・解説〕

一〇一―一〇一

イエツケル論文原文

一〇三―一〇六

第一〇二八号 一九六六年五月号

Editorial : The Diet must now be dissolved [Sadao Miyoshi]

四―五

主張 進んで国会を解散すべし〔三好貞雄〕

六―七

沖縄防衛と施政権返還問題―運命共同体意識について日本国民に訴う〔大田政作〕

八―二六

特集 国防軍創設の急務

日本の外交と国防問題について〔谷川和穂〕

二七―三四

軍備コントロールと安全保障〔桃井真〕

資料 国防問題をどう考えるか―世論調査は国防意識の漸増を示す

資料 東南アジア開発閣僚会議―各国の反響・各紙の論調を観る

書評 日本国際連合協会訳編『国際連合二〇年の歩み』

資料 ソ連・モンゴル友好新条約―仮装敵国^{クマ}の変化 日本より中国へ

孫中山伝記(三)〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕

新生国家群の動向分析(五) A・A諸国の登場と結集をめぐる動向(下)〔浦野起央〕

資料 中共・新河川法を制定―中・ソ国境紛争更に激化か

日本現代史への一視角(上)―政戦両略の考察〔角田順〕

角田論文英文

第一〇二九号 一九六六年六月号

主張 非核武装国連盟の結成を提唱する〔三好貞雄〕

Editorial: A Proposal for an Alliance with Non-Nuclear Powers [Sadao Miyoshi]

核時代における日本の防衛〔田中直吉〕

〔国連軍と日本―最近の国防論議に関連して〔関野昭一〕〕

ゲリラ戦争戦略と中ソ対立〔フランツ・マイケル(岡本順一訳)〕

東は西・西は東―ベトナムは日本自身の問題でもあるか

〔J・D・ロックフェラー三世(大谷正義訳)〕

三五―四一

四九―五六

四二―四七

四八―四八

五七―五九

六〇―七〇

七一―七八

七九―八〇

八一―一〇〇

一〇一―一〇六

三一五

八一―二一

二二―三一

三二―三六

三七―四一

資料 中共の第三回核実験に関する各国の反響・各紙の論調を観る 四二―四五
資料 ベトナム問題をめぐる国際情勢日誌
―ジョンソン政権成立後の米国を中心として〔本社編集部〕

日米租税条約の再考察―その基本原則と諸修正条項に焦点を合わせて〔菊地正〕 四六―五三

チベットはどうして中共に奪われたか―亡命先インドより日本国民に寄す〔T・タクラ―〕 五四―六五

奇蹟の国イスラエルで―新しい世界観を産んだ、キブツ〔手塚信吉〕 六六―六九

随筆 孫文 阿部政務局長 ビハリ・ラス・ボース〔海妻玄彦〕 七〇―七六

随筆 東条さんを私邸に訪ねて〔渡辺渡〕 七七―八一

随筆 鹿島守之助先生へ―新しい無限の明日がある〔武内文彬〕 八二―八八

随筆 イタリ―勲章に輝く鹿島卯女夫人〔宮坂陽子〕 八九―八九

日本現代史への一視角（下）―政戦両略の考察〔角田順〕 九〇―一〇二

第一〇三〇号 一九六六年七月号

巻頭言 日本の安全保障に関する中間報告（自民党）を読んで〔三好貞雄〕 四―五

Editorial : On the "Intermediate Report" Concerning National Security Prepared by the Liberal-Democratic Party [Sadao Miyoshi] 六―七

ソ連の現代外交政策を論ず〔尾上正男〕 八―二八

ペンタゴンの革命を覗く―電子計算機とORと政策決定〔福島康人〕 二九―三五

ローデシア問題の由来〔内藤智秀〕 三六―四〇

新刊紹介 長谷川峻著『米ソを相手に―国民的利益をもとめて』（高橋武彦）

資料 Containment Policy ――『せきとめ政策』の真意義

資料 中共・新疆ウイグル自治区

資料 アジア・太平洋地域の協力のための閣僚会議に関する各国の反響

資料 自由民主党安全保障に関する調査会「わが国の安全保障に関する中間報告」

（一九六六年六月二二日・全文）

モンゴルにおける終戦時の日本人―そこには日本人の汗と涙と血が（春日行雄）

特集 落花流水

資料解説 明石復命書―落花流水〔稲葉正夫〕

原本表紙

防衛庁戦史室所蔵本写真

明石元二郎大将遺稿『落花流水』（全文）

諜報史上より見たる日露戦争

―とくに明石元二郎大将遺稿『落花流水』を中心として〔黒羽茂〕

Colonel Akashi's Intelligence Service and His Work in the Russo-Japanese War

〔Shigeru Kuroha〕

第一〇三二号 一九六六年八月号

特集 中共政権の解剖

四一―四一
四二―四三
四四―四五
四六―五一
五二―六〇
六一―六八
七〇―七〇
七一―七一
七二―七二
七三―一〇〇
一〇一―一二
一一五―一一八

- 主張「政経分離」を止揚して『外交権』を確立せよ〔三好貞雄〕
 三一五
- Editorial : Politics and Economy to be Integrated for Diplomacy [Sadao Miyoshi]
 六一七
- 中共の文化革命とソ連の「フ」路線―うつりゆく共産圏(分極化)〔山田久就〕
 八一―一
- 中共の外交政策―暴力世界革命の方略〔斎藤忠〕
 二二―一八
- 中国における社会主義観の発展系譜と毛沢東学習運動
 一革命理論の深化と新共産主義移行論〔小林多加士〕
 一九―二九
- 中国の国境紛争と国際政治(一)〔大畑篤四郎〕
 三〇―四三
- 中共の軍隊―その思想と指導原則〔チャルマス・ジョンソン(横尾和歌子訳)〕
 四四―五〇
- 中共「文化大革命」の実態をさぐる〔藤井彰治〕
 五一―五八
- 参考資料 整風・文化大革命の経過
 五九―五九
- 解放軍の学習運動と人民戦争論〔上別府親志〕
 六〇―六七
- 中共の核開発と経済的諸問題〔前田寿夫〕
 六八―七八
- 中国の農業問題〔蔵居良造〕
 七九―八四
- 中共の工業化の現状と将来―「一窮二白」と工業化〔土井章〕
 八五―九〇
- ベトナム戦争における中共の態度〔浦野起央〕
 九一―一〇五
- 孫中山伝記(四)〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕
 一〇六―一一四
- 内側から見た新中国〔淡三郎〕
 一一五―一二六
- 資料 アメリカン・アラムナイ・カウンスルに対するジョンソン米大統領の演説
 「太平洋勢力としてのアメリカ」(一九六六年七月二二日)
 一二七―一二九

最近のモンゴル人民共和国〔貞本尚〕

一三〇―一三三

第一〇三二号 一九六六年九月号

巻頭言 佐藤・西尾会談の意味するもの〔三好貞雄〕

三一三

Editorial : Sato-Nishio Conference [Sadao Miyoshi]

四―四

日韓経済提携の要諦―対韓経済協力は開発輸入に重点を指向すべきである〔中谷忠治〕

五一―九

モンゴル人民共和国成立史―ソ連と日本と民国の間の外蒙古〔後藤富男〕

二〇―三三

通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究(一)〔菊地正〕

三四―四三

孫中山伝記(五)〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕

四四―五三

中国の国境紛争と国際政治(二)〔大畑篤四郎〕

五四―六〇

武器なき戦い―ベトナム農村における米国の非戦闘員

六一―七五

〔ジョージ・K・タンハム(坂本忠次訳)〕

七六―八八

内側から見た新中国〔淡三郎〕

八九―九六

フィリッピン独立運動の実態と布引丸事件の真相(上)〔黒羽茂〕

九七―九八

書評 D・M・アブシャー、R・V・アレン著『国家の安全保障』〔浦野起央〕

九八―九九

書評 斎藤栄三郎著『占領下の日本―戦後二十年の証言』〔浦野起央〕

九九―九九

書評 リーヒヤルト・レーヴェンタール著

九九―九九

『国際共産主義―モスクワ・北京・ベルグラード』〔小林多加士〕

一〇〇―一一五

資料 インドネシア九月三〇日クーデター特別軍事裁判公判記録抜萃

一〇〇―一一五

第一〇三三号 一九六六年一〇月号

巻頭言 パール博士を迎えて太平洋戦争再吟味の時来る〔三好貞雄〕

四一四

Editorial : The Pal Judgement - Now a High Time to Reconsider Results of the Pacific War

[Sadao Miyoshi]

五一五

パール博士履歴

六一六

清瀬一郎宛パール博士メッセージ

七一七

パール博士を迎えてその業績を讃う〔清瀬一郎〕

八一二

パール判決の意義〔田岡良一〕

一三一六

パール博士と東京裁判〔一又正雄〕

一七二五

パール博士会見記―一四年前カルカッタの自邸にて〔長谷川峻〕

二六一二九

パール判決書と昭和史〔角田順〕

三〇一三五

パール博士と世界連邦〔田中正明〕

三六一三九

平和部隊の発展のために―日本青年海外協力隊の現状と問題点〔末次一郎〕

四〇一五〇

通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〔二〕〔菊地正〕

五一一五七

フイリッピン独立運動の実態と布引丸事件の真相〔下〕〔黒羽茂〕

五八一六五

武器なき戦い〔二〕―ベトナムの平和部隊 ヴェイン・ビン省にて〔W・ロバート・ウォーネ〕

六六一七六

書評 現代アジア社会思想研究会編『アジア社会の近代化と価値体系』〔浦野起央〕

七七一七七

続・続「内側から見た新中国」〔淡三郎〕

七八一八五

資料 チベットのヤルツァンプ江の架橋についての観察〔矢野光二〕

八六一八七

資料 中共文化革命批判―進歩的文化遺産の継承は必要 プラウダ所載論文

八八一―八九

インドネシア・クーデターの真相(上)―PKIの活動とその滲透力 [Utuson Melayu 紙掲載]

九〇―一〇六

第一〇三四号 一九六六年一月号

巻頭言 毛沢東に与う [三好貞雄]

三一―四

Editorial : To Mr. Mao Tse-tung [Sadao Miyoshi]

五一―六

最近の西ドイツ外交について―アデナウアー外交からエアハルト・シュレーダー外交へ

[鹿島守之助]

七一―一〇〇

核戦略下における有事駐留論 [永末英一]

二一―二八

自民党よ、政治の姿勢を正せ―自己防衛は国民の声 [永山忠則]

二九―三四

国際綿連ロンドン会議に出席して [有田円二]

三五―三八

通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究(三) [菊地正]

三九―四四

孫中山伝記(六) [鄧慕韓著・木下彪訳注]

四五―四九

資料 日本をどうみてるか―日本の外交的役割

五〇―五二

資料 国連総会におけるゴールドバーク米大使演説全文(一九六六年九月二二日)

五三―五七

資料 全米論説記者会議におけるジョンソン米大統領の演説(全文)(一九六五年一〇月七日)

五八―六〇

武器なき戦い(三)―フー・ボン省にて [アール・J・ヤング]

六一―七六

続・続・続「内側から見た新中国」 [淡三郎]

七七―八九

インドネシア・クーデターの真相(下)―九月三〇日深更から失敗の日まで

第一〇三五号 一九六六年二月号

巻頭言 再び非核武装国連盟を提唱す〔三好貞雄〕

三一三

Proposing Again a Non-Nuclear Power Alliance [Sadao Miyoshi]

四一四

毛沢東の国内・国際路線の推進―中共の文化大革命と紅衛兵の本質〔廣田洋二〕

五一二五

APUはアジアのかけ橋〔千葉三郎〕

二六一二八

毛沢東の思い出〔野田武夫〕

二九一三一

椎名外相を勤務評定すれば〔宮村文雄〕

三二一三九

燃料革命と日本の国際的地位―激動する東西両陣営の陣容〔延島英一〕

四〇一五五

マニラ会議とベトナム問題〔牧内正男〕

五六一六三

資料 マレーシア国家元首主催夕食会でのジョンソン米大統領演説〔全文〕

六四一六五

(一九六六年一〇月三〇日)

辺境国家モンゴルの課題―ラティモア『モンゴル』を讀みて〔浦野起央〕

六六一六八

アジアの革命児プラタップ君の思い出〔今里準太郎〕

六九一七三

武器なき戦い(四)―クオン・ナム省〔ウイリアム・A・ナイスウォンガー〕

七四一九三

第一〇三六号 一九六七年一月号

巻頭言 総選挙の争点は日本の防衛問題とせよ〔三好貞雄〕

三一三

- Editorial : Defense of Japan to be the Issue for the General Election [Sadao Miyoshi] 四一四
- 日本外交史上における陸奥宗光の地位〔田村幸策〕 五一一五
- 中共の核実験と我国の態度〔高瀬伝〕 一六一一七
- 新国際通貨問題の行方―IMFの論争をめぐる〔長谷川光太郎〕 一八一三三
- ベトナム問題の文脈〔一〕〔浦野起央〕 二四一三三
- 孫中山伝記〔七〕〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕 三四一三八
- 中共を裸にする〔淡三郎〕 三九一四九
- 中共内部の権力闘争を衝く―文化大革命及び紅衛兵の実体〔黄洋〕 五〇一五三
- 中ソ国境の緊張と対立〔二〕〔ジョージ・N・パターンソン（坂本忠次訳）〕 五四一六一
- 随想 ベトナムを中心にして〔向後英一〕 六二一六五
- 資料 アジア開発銀行創立総会におけるファウラー米財務長官の演説 六六一六八
- （一九六六年一月二四日） 六九一七二
- 資料 外人記者クラブにおけるユージン・ブラック米大統領顧問の演説 七三一七四
- 資料 東南アジア農業開発会議（一九六六年二月六日～八日） 七四一七四
- 佐藤総理大臣演説 七五一七五
- 三木外務大臣挨拶 七六一八六
- 共同声明 八七一九一
- キューバ・カストロ革命―国際政治からみた総合研究〔一〕〔今村之治〕
- 通商条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〔四〕〔菊地正〕

第一〇三七号 一九六七年二月号

巻頭言 二度び非核武装国連盟を提唱し

三木外相の「非核外交推進」に期待する〔三好貞雄〕

日米安保条約の期限到来と沖縄の施政権返還〔大田政作〕

国防と外交とは総選挙の基本争点〔田村幸策〕

危局に立つ議会政治を救え〔長谷川峻〕

総選挙と黒い霧とコンセンサス〔田尻愛義〕

バルト三国に対するソ連の武力征服〔シジカウカス（北岡寿逸訳）〕

ウクライナ独立運動と日本〔ヤロスラフ・ステッコ（横尾和歌子編訳）〕

資料 クルト・ゲオルク・キージンガー連邦首相の施政方針演説〈全文〉

資料 東南アジアの平和に対する米政策の一四の要件

通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〈五〉〔菊地正〕

中ソ国境の緊張と対立〈二〉〔ジョージ・N・パターソン（坂本忠次訳）〕

ベトナム問題の文脈〈二〉〔浦野起央〕

第一〇三八号 一九六七年三月号

巻頭言 社会党の猛省を促がす〔三好貞雄〕

Editorial : Advice to the Japan Socialist Party [Sadao Miyoshi]

義和団事変〔植田捷雄〕

三一四

五一一六

一七一二七

二八一三二

三三一三六

三七一三七

三八一四二

四三一五一

五二一五二

五三一五九

六〇一七〇

七一一九一

三一四

五一五

六一一六

西独の新連立政権とブランド外交―その東独接近と全欧州動力開発計画の提唱〔延島英一〕 一七―二八
 海洋国家と大陸国家―日本とシナの運命〔倉前義男〕 二九―四一

資料 ジョーンソン米大統領の一般教書〔全文・一九六七年一月一〇日議会提出〕 四二―五一

東欧へのかけ橋（ボン発）〔D・K〕 五一―五一

書評問答 社会と会社 広西氏『資本論の誤訳』を読んで〔高橋正雄〕 五二―五五

高橋正雄さんへの返書〔広西元信〕 五五―六〇

ベトナム問題の文脈〔三〕〔浦野起央〕 六一―八五

インドネシア地域遺骨収集の回顧〔石母田武〕 八六―九三

第一〇三九号 一九六七年四月号

巻頭言 ジョーンソン大統領に与う〔三好貞雄〕 三一―五

Editorial : To President Lyndon B. Johnson [Sadao Miyoshi] 六一―七

核時代の外交―核拡散防止条約と下田発言〔斎藤忠〕 八一―三三

核拡散防止条約の陥穽―調印は見送るべきである〔倉前義男〕 一四―二三

沖縄問題解決の方向と教育権返還の諸問題〔末次一郎〕 二四―三四

ベトナム問題の文脈〔四〕〔浦野起央〕 三五―四四

中ソ国境の緊張と対立〔三〕〔ジョージ・N・パターソン（坂本忠次訳）〕 四五―六四

孫中山伝記〔八〕〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕 六五―七一

通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〔六〕〔菊地正〕 七二―七五

民族思想から見たベトナム戦争〔塚本毅〕

七六一九三

第一〇四〇号 一九六七年五月号

巻頭言 核拡散防止条約を契期として超党派外交の緒をひらけ〔三好貞雄〕

二一三

核拡散防止条約と日本外交〔広田洋二〕

四一—四四

ソ連の核政策と東欧諸国支配の変遷〔ヤロスラフ・G・ポラーチ（延島英一訳）〕

一五一—二四

毛沢東の命運〔田村幸策〕

二五—二九

エカフエの過去と現在と将来―エカフエ東京総会をめぐって〔伏見楚代子〕

三〇—三九

通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〔七・完〕〔菊地正〕

四〇—四六

キューバ・カストロ革命―国際政治からみた総合研究〔二〕〔今村之治〕

四七—五四

国際連合下の植民地住民保護制度〔前編〕〔青木出郎〕

五五—六三

書評 第一次世界大戦史研究の新動向

―三宅正樹氏の論文「第一次世界大戦」に寄せて〔義井博〕

六四—七〇

書評 現代アジア社会思想研究会編『毛沢東思想と中国の社会主義―中共革命の再検討』

〔浦野起央〕

七〇—七一

資料 スハルト大統領代理 インドネシア経済崩壊防止の第一歩を踏出す

（一九六七年四月七日マレイシア ウトサン・ムラユ紙掲載）

七二—七四

〔リチャード・エ・ストーン（市川正晴訳）〕

七五—九三

明治百年における日韓合邦の意義〔入江汎〕

七五—九三

第一〇四一号 一九六七年六月号

「卷頭言 中共を除外して核不拡散は成立するか

―日本は大いなる核保有国であるべきだ〔三好貞雄〕

核拡散防止に関する民社党の態度〔曾祢益〕

「アジアに新しい風が吹く」〔梅原一雄〕

東南アジア経済開発の焦点〔斎藤栄三郎〕

アジア・太平洋圏構想の行方〔牧内正男〕

東南アジアの農業開発と日本の立場〔大戸元長〕

後進諸国綿業の発展と日本綿業〔有田円二〕

世界食糧危機に脅える第二世界・共産圏―新マルサス主義に敗れたマルクス主義〔延島英一〕

沖繩一部返還論〔完倉寿郎〕

「モンゴル承認」日米いづれが先か〔松崎陽〕

宇宙条約の解説〔菊地正〕

孫中山伝記〈九〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕

書評 リチャード・P・ステビンズ著（鹿島平和研究所訳）

『世界情勢と米国 一九六五』〔浦野〕

国際連合下の植民地住民保護制度〈後編〉―植民地住民保護思想・制度の変遷〔青木出郎〕

二一三

四一六

七一一四

一五一一七

一八一二二

二三一二七

二八一三二

三三一四四

四五一一五

五二一五九

六〇一七一

七二一七七

七八一七八

七九一八六

第一〇四二号 一九六七年七月号

巻頭言 中共の水爆実験と米ソ首脳会談〔三好貞雄〕

二一三

中東動乱の起因とその戦後処理〔土田豊〕

四一―六

訪米報告記

沖繩問題の焦点〔大浜信泉〕

二七―三二

これからの沖繩問題〔末次一郎〕

三三―四二

生き返った「西イリアン協定」〔森田大耕〕

四三―五〇

イスラエルとユダヤ民族主義〔塚本毅〕

五一―五五

孫中山伝記（一〇）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕

五六―六三

共產世界におけるエネルギー事情の展望〔ヤロスラフ・G・ポラーチ（延島英一訳）〕

六四―六九

資料 東西両独における原子力開発

七〇―七一

韓国併合〔植田捷雄〕

七二―七八

前清宣統帝の師傳、陳宝琛の日本観〔上〕

―宣統帝の著書、『わが半生』を讀みて、その一〔河村一夫〕

七九―八七

洪思翊將軍を偲ぶ〔稲葉準造〕

八八―八九

書評『明治の評価と明治人の感觸』

九〇―九〇

第一〇四三号 一九六七年八月号

巻頭言 中共の革命輸出〔三好貞雄〕

二一―三

中東問題の歴史的背景〔田村幸策〕

わがアジア政策の方向―首相のアジア歴訪とASAPAC〔牧内正男〕

南ベトナム情勢の新段階〔青野博昭〕

韓国総選挙の行くえ〔金三奎〕

資料 中東紛争の記録〔浦野起央〕

孫中山伝記（一）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕

チトー最後の血戦―民族抗争と絡む改革阻止の陰謀と対決〔イリヤ・ユキツチ（延島英一訳）〕

ソ連戦略思想からみた限定核戦争（二）〔ジョン・R・トーマス（岡本順一訳）〕

前清宣統帝の師傳、陳宝琛の日本観（下）

―宣統帝の著書、『わが半生』を讀みて、その一〔河村一夫〕

世界史の転回点としてのミュンヘン協定〔黒羽茂〕

第一〇四四号 一九六七年九月号

巻頭言 社会党（野党第一党）党首の北ベトナム訪問は中止すべし〔三好貞雄〕

毛沢東の文化革命は成功するか〔土居明夫〕

日ソ関係の新展開―三木外相訪問の意義〔牧内正男〕

太平洋諸島信託統治地域の現状と将来（上）―信託統治理事会の活動〔青木出郎〕

スカルノ研究特集

スカルノ像―破綻した独裁者の一側面〔森田大耕〕

四一―五

一六―二〇

二一―二六

二七―二九

三〇―五一

五二―五八

五九―七〇

七一―七七

七八―八七

八八―九四

二―三

四―一

二一―一七

一八―二五

二六―三八

- スカルノ大統領の栄光と没落〔アブドル・ラーマン・ラヒム（市川正晴訳）〕 三九―五二
- 資料 チベットのにおける権力闘争の発展―陳伯達・江青派と林彪派が衝突〔Yang Tang-hao〕 五三―五六
- レーニンを棚上げするユーゴ共産主義
- ―無党・直接民主主義への手探り〔スラボタン・スタンコビッチ（延島英一訳）〕 五七―六三
- 資料 南疆とはどんな処か〔朱桂〕 六四―六六
- ソ連戦略思想から見た限定核戦争（二）〔ジョン・R・トーマス（岡本順一訳）〕 六七―七五
- 資料 文明の揺籃を死床に変えるな〔モハメド・アルサゴフ〕 七六―七六
- 満洲皇帝と我が駐滿大使との定例会見
- ―宣統帝の著書『わが半生』を讀みて、その二〔河村一夫〕 七七―八一
- 第一〇四五号 一九六七年一〇月号**
- 巻頭言 核防条約の調印は慎重に〔三好貞雄〕 一一―一二
- 再び核防条約の陥穽について警鐘を乱打する〔倉前義男〕 一三―一四
- 無核・核防衛論〔亀井貫一郎〕 一五―一六
- 北方領土問題
- 北方領土返還交渉の前途―コスイギン首相の発言を繞つて〔田村幸策〕 一七―一八
- 還らざる北方の島々―百年でも千年でも頑張ろう〔斎藤忠〕 一九―二〇
- 北洋の暖流は日本の運命を左右する―領土解決の問題点をさぐる〔能戸英三〕 二一―二二
- 孫中山伝記（一）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕 二三―二四

資料「西マレイシア共産白書」マレイシア政府発表〔市川正晴訳〕

書評 角田順『満州問題と国防方針―明治後期における国防環境の変動』〔義井博〕

太平洋諸島信託統治地域の現状と将来（下）―信託統治理事会の活動〔青木出郎〕

第一〇四六号 一九六七年一月号

巻頭言 沖繩施政権返還と日本の戦後意識の払拭〔三好貞雄〕

ソ連革命五〇年の歩みを観る

ソ連外交五〇年の回顧〔田村幸策〕

回想のロシア革命〔高谷覚蔵〕

ロシア革命成立史（一）〔延島英一〕

沖繩施政権返還問題

沖繩の施政権返還について再び訴える〔大田政作〕

沖繩問題解決の時期はきた〔永末英一〕

沖繩の施政権返還と基地方式〔岡本順一〕

首相・外相訪問旅行の政治的意義〔牧内正男〕

ABMの一つの見方〔亀井貴一郎 提供〕

孫中山伝記（一三）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕

資料 全米州議会議員大会におけるジョンソン米大統領の演説

〈全文・一九六七年九月二十九日 テキサス州サンアントニオ〉

六四―六九

七〇―七四

七五―八三

二―二

三一―五

一六―二三

二四―二八

二九―三四

三五―三九

四〇―四五

四六―五〇

五一―五七

五八―六六

六七―七〇

資料 アジア開銀新規特別基金への二億ドルきよ出権限を要請した

ジョンソン米大統領の議会あて教書（一九六七年九月二六日）

資料 アジアの団結（マレイシア「ウトサン・ムラユ」紙一九六七年九月二四日社説）

資料 インドネシア展望 スハルト政権新段階に入る

（ジャカルタ日刊紙「オペラシ」一九六七年九月八日付）〔編輯長バハテアル・ジュミリ〕

資料 石油こそインドネシアの期待（シンガポール日刊紙「ブリタ・ハリアン」

〔ロイター特派員ピーター・ジョブ〕

書評 浦野起央編著『ベトナム問題の解剖―分析と資料』（田村幸策・奥源造）

フランス大革命とイギリスとの関係

―フランス大革命の思想的指導部はロンドンにあった〔坂清〕

第一〇四七号 一九六七年二月号

巻頭言 沖縄返還と日本の防衛体制（三好貞雄）

日本の安全保障と沖縄施政権返還問題（賀屋興宣）

首相訪米のバランス・シート―アジア・太平洋構想の展開へ（牧内正男）

中共の核力の中和―印度との提携（亀井貫一郎）

資料 中東紛争の資料（浦野起央編）

孫中山伝記（一四）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕

資料 シッキムにおける中印軍の衝突〔矢野光二〕

七〇―七十二

七三―七三

七四―七五

七五―七五

七七―七九

八〇―八七

二―二

三一―四

一五―二一

二二―二九

三一―四二

四三―四九

五〇―五一

- ロシア革命成立史(二) モンゴルのロシア征服が残した痕跡〔延島英一〕 五二―五七
- キユーバ・カストロ革命―国際政治からみた総合研究(三)〔今村之治〕 五八―六六
- ナシヨナリズムの世紀(上)〔ハンス・コーン〕(佐々木邦郎・浦野起央共訳) 六七―九一